



「まち歩き」でまちづくり

地域・大学・行政が連携して

安全で安心して暮らせるまちをつくる

福岡県北九州市 枝光第一区市民防災会

北九州市の人口は、産業構造の変化や出生率の低下により1980年を境に減少を続けており、併せて高齢化率は上昇しています。八幡東区枝光一区の地域においても同様に人口の減少と高齢化が進み、傾斜地における管理者不在の空き家や空き地が増加したことによる防火・防災上の危険性や住環境の悪化が課題となりました。

枝光第一区市民防災会は、これらの課題を解決するために、九州大学大学院人間環境学研究院の志賀勉准教授をアドバイザーとして迎え、平成18年から地域住民や大学院生、地元消防団員が協働で「まち歩き」を実施し、危険個所の確認や地域防災マップの作製・配布、また危険箇所等について行政へ改善要望を行うなど、地域が主体となり、大学や行政と連携し安全で安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいます。

毎年6月の第一日曜日に地域住民と大学院生、地元消防団員が協働で、前年に

作成したマップをもとに町内ごとに班に分かれて「まち歩き」を実施し、空き家や空き地、老朽家屋、ブロック塀、擁壁、道路等を調査して、防火・防災上の危険個所や住環境上の問題個所を把握し、災害時の一時集合場所や「区内巡視」の結果を整理してマップに書き込むとともに、改善策や改善に際しての課題について意見交換を行ったのちに班ごとに調査結果を発表する。最後に志賀淳教授に、改善に必要な助言や提案をしてもらいます。

今年度に限っては、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、事前に自治区会の町会長さんへ今年度の点検マップを配布し、マップには昨年までの点検・改善活動で確認した個所をマークしたマップを配布し、当日の点検活動を円滑に進めるため事前にマップを確認いただき、特に注意すべき個所や新たな問題発生個所、改善個所をマップに書き込み、当日持ち込んでいただきました。また



山王地域の空き家



振り返りの様子

「まち歩き」後の座談会は実施せず、自治区会の役員と志賀研の大学院生で振り返りを行いました。

毎年10月ごろに問題検討会を開き、「まち歩き」で取り上げられた危険個所や問題個所について、区役所の関係課へ改善要望を行うとともに情報の共有を図り、大学院生は、「区内巡視」の結果をもとに危険個所や改善個所等の内容の見



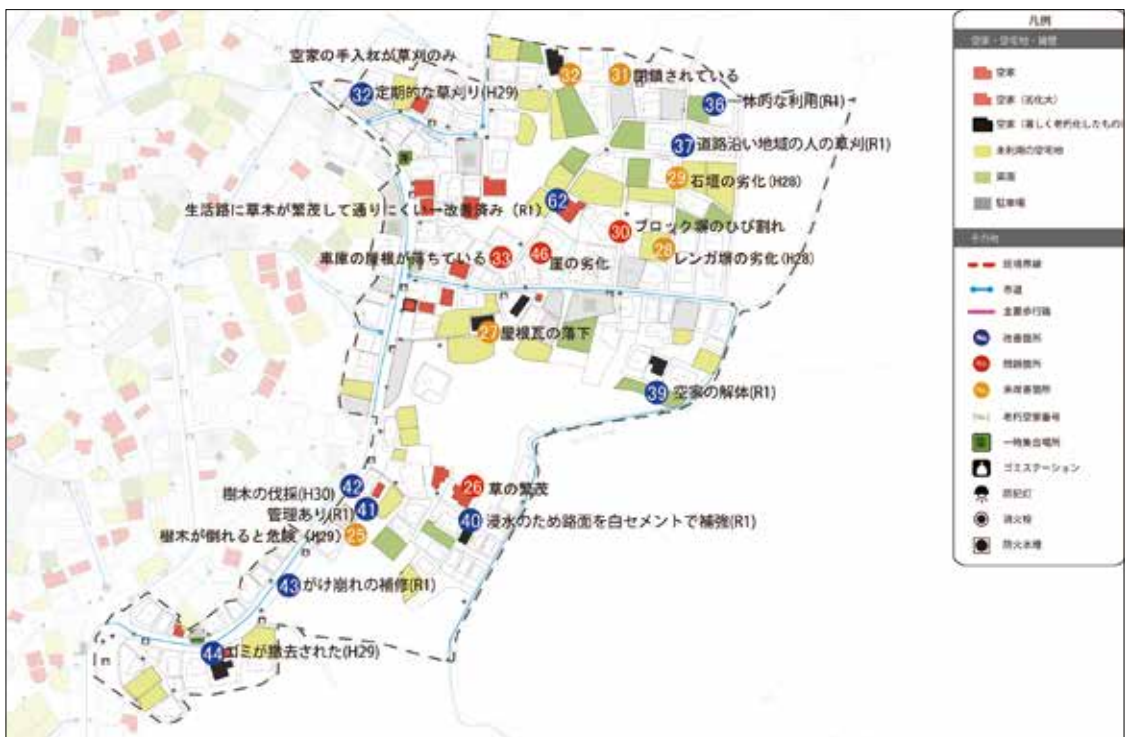
行政と問題検討会

直しを行い、新たな地域防災マップを作成して、自治区会を通じて地域住民へ配布しています。

地域防災マップを地域住民に配布することにより、防火・防災上の危険個所や住環境上の問題個所、災害時の一時集合場所、過去に確認された危険個所や問題個所の改善状況等についての情報を把握・共有ができるようになりました。

区役所の関係課への改善要望を始めたことにより、過去3年間で確認した危険個所や問題個所93件のうち44件が改善される等、地域の環境改善が進んでいます。

また、民地等の未改善個所についても、区役所の関係課から土地所有者に対して改善指導がなされるようになりました。



まち歩きベースマップ山王